

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

記

農薬名：ナギナタジャンボ（登録番号：第 23331 号）

適用拡大登録月日：平成29年9月27日

適用拡大登録内容：

- 作物名「移植水稻」の使用時期「移植後3日～ヒエ2.5葉期 但し、移植後30日まで」を「移植直後～ヒエ2.5葉期 但し、移植後30日まで」に変更する。
- 作物名「移植水稻」に適用雑草名「アミドロ・藻類による表層はく離」を追加する。
- 作物名「直播水稻」を追加する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサクロチンを含む農薬の総使用回数	ピリミルファンを含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クダマ コウキヤガラ アミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ヒエ 2.5葉期 但し、 移植後 30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g) /10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内	2回以内	2回以内
直播水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ヒエ 2.5葉期 但し、 収穫 90日前まで						

注意事項の変更：

【変更後】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないもので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるため、使用はさけること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 直播水稲に使用する場合、以下の点に注意すること。
 - 発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布すること。
 - 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、水持ちの安定した後に散布すること。
- 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上